



京都大学

設置期間 2020年4月～2023年3月

寄附者 JOHNAN株式会社



スタートアップエコシステムの構築 ～100年続くベンチャーが生まれ育つ都を創る～



教員

教授	山田 仁一郎	特定助教	柳 淳也
客員教授	若林 靖永	客員准教授	山川 賢記
客員教授	今庄 啓二	特命講師	上野 敏寛
客員教授	竹林 一	研究員	並木 洲太郎
特命教授	山本 光世		

目的

本講座の目的は、新商品開発の試作から量産に至る製造一貫支援をグローバルレベルで提供する、京都地域開発に関する研究・教育と啓発です。本講座では、商品開発ならびに起業に焦点を当てた事業デザイン、試作を含めたプロダクト・リアライゼーション、さらにはインキュベーションとアクセラレーションを含めた「産業エコシステム」を、グローバルレベルかつ京都に相応しい形で実現すべく、実践的な研究を進めます。同時に、そのような動きを先導する起業家にはどのような資質・能力が必要で、それらをいかに具備させるべきかについても実践研究していくことを狙いとしています。

講義協力 ◎ 事業デザイン論

活動紹介

本寄附講座は 2017 年 4 月～ 2020 年 3 月に実施された第 1 期での成果を踏まえ、第 2 期として「100 年続くベンチャーが生まれ育つ都を創る」ことに寄与する以下 4 つの事業を行う。

① 100 年続くベンチャーが生まれ育つ都研究会事業

100 年続くベンチャーが生まれ育つ都を創る必要十分条件はなにかを研究し、その要件を実践する事業。月に一度程度（原則第 3 月曜日）各テーマの専門家を招聘し研究会を行い、その成果をもとに学術論文や学会での発表を目指す。2020、2021 年度は、ZOOM や YouTube を活用し、毎回 300 名前後の参加者を集めた（実施したテーマ例：エフェクチュエーション、宗教とイノベーション、ティール組織、京都試作ネット、起業家等）。

② 次世代 HRC（Human Robot Collaboration）生産システム研究会事業

人とロボットがお互いを認識して一緒に作業をすることを「協働」と定義し、人とロボットが協働する生産システムを実証的に検討していく。期待される研究成果は、将来の生産システムの具体的ビジョン提案、生産現場での検証に向けたフレームワークの提示のみならず、政府機関に対する政策提言、研究内容に関わる論文発表及び学会報告を目指す。

③ エフェクチュエーション教育プログラム企画運営事業

起業家教育において、エフェクチュエーションに特化した教育プログラムを開発し運用する事業。経営管理大学院において 1 年に一度半期で「事業デザイン論」の授業を運営する。将来的には、その成果をもとにエフェクチュエーションを活用した起業家教育のプログラムに発展させることを企画する。

④ 京都ものづくりバレーシンポジウム

年 1 回程度、キースピーカーとして世界的著名人も招聘し（2021 年度は、エフェクチュエーション理論の提唱者である、バージニア大学サラス・サラスパシー教授）、各年度の活動報告、総括と意見交換を行う。



100 年続くベンチャーが生まれ育つ都研究会



2021 年度シンポジウム